

宗谷地域における環境学習型ドライブ観光に関する取組み*

Efforts for Driving Tourism Development Focusing on Eco-Learning in Soya, Hokkaido *

田中寿明**・植村正人***・原文宏****・新田みゆき*****

By Toshiaki TANAKA**・Masato UEMURA***・Fumihito HARA****・Miyuki NITTA*****

1. はじめに

シーニックバイウェイ北海道の指定ルートである宗谷シーニックバイウェイでは、景観・環境・情報・観光をテーマとして様々な活動を行っている。本地域は、日本の最北であり、豊富な水産資源を目的に多くの観光客が訪れる地域である。また、近年では、風車・太陽光による発電の研究・事業化が行われている地域でもある。平成19年11月には、これらの地域資源を活用し、地域の活動団体が継続的に運営可能な環境学習型ツアーの試行を行った。

本報告では、ツアーの試行結果及び、参加者のアンケート結果から、今後の環境学習型ツアーの課題と可能性について整理する。

2. 環境学習型ツアーの試行

(1) ツアーの目的

本ツアーは、エコロジーの「エコ」とマイレージの「レージ」を合わせた造語として「エコレージ」という名称で試行している。この名称に表わされるとおり、本ツアーの目的は、宗谷の自然環境とドライブ観光の共存共生や、観光（経済）と環境のよりよい関係を保つための取り組みなどについて調査するために試行している。

(2) ツアーの概要

本ツアーは下記の要領で開催している。

- ・日時：平成19年11月17日（土）～18日（日）
- ・開催場所：稚内市、豊富町
- ・対象者：札幌市、稚内市の在住者
- ・開催場所における移動手段：自家用車、レンタカー

(3) ツアーのスケジュール

目的の達成及び、当日、協力できる関係機関との調整により、下表のスケジュールで開催を実施した。

*キーワード：シーニックバイウェイ、環境、観光

正員、工修、（社）北海道開発技術センター（北海道札幌市中央区南1条東2丁目11、TEL011-271-3022、FAX011-271-5366、*正員、工修、（社）北海道開発技術センター、****正員、工博、（社）北海道開発技術センター、*****未来のくらしと宗谷路（ネットワーク）を考える会

表 - 1 ツアーのスケジュール

時刻	場所・内容
11月17日（土）	
8:30	出発 - 札幌
	【移動】バス
14:20	稚内観光協会（ミーティング）
14:40	出発
	【移動、説明】太陽光発電、風力発電
16:30	宗谷岬
16:45	出発
	【移動】
18:00	豊富温泉（懇親会）
11月18日（日）	
8:00	出発
	【移動、見学】大規模草地
9:00	開源パーキング（防雪林植樹）
	【移動】
11:00	稚内公園（足湯体験）
11:20	出発
	【移動】
11:30	稚内市内ホテル（昼食、ミーティング）
13:00	出発
	【移動】バス
20:00	到着 - 稚内

(4) 参加者の状況

本ツアーへの参加者は21名。うち、女性6名、男性15名であった。参加者の年齢構成については10代から50代まで幅広い年代の参加が見られた。また、恒常的に車を運転しており、運転暦が11年以上あるベテランドライバーの参加が目立ったが、運転暦1～5年未満の参加もあった。

多くの参加者が、友人・知人らの紹介で開催情報を得たと回答があった。参加理由については、友人からの勧めが参加動機になったとの回答が多く寄せられた。また、「エコ」というキーワードや、稚内・豊富といった旅行場所に惹かれたといった回答もあった。

(5) 参加者の環境意識

参加者の環境問題への意識は高く、日常的な意識や、自ら実践しているという回答が多く寄せられた。

表 - 2 普段意識、取り組んでいる環境配慮行動

環境配慮の行動	人数
節電	9
節水	10
ゴミの分別・リサイクル	14
エコ活動への参加	8
エコバッグの使用	5
自家用車の利用抑制	7
割り箸の利用抑制	3
その他	1

複数回答可

3. 環境に配慮した行動への理解と意識向上の可能性
ツアーの開催に当たり、下記項目について、それぞれ事前事後にアンケートを行っている。

表 - 3 エコツーリングのすすめ

「アイドリングストップ」で快適シニックツーリング ~ 車を停めたらエンジンもストップ。不要なアイドリングはやめましょう。
「急発進・急加速を避けて」ゆとりのスマートツーリング ~ 「急！」は禁物。あせらず、ゆとりのスマートドライブを。急発進、急加速を避けましょう。
「エアコン控えて」風を楽しむ爽やかツーリング ~ 風を感じ、爽やかな空気を満喫して走るのもお勧め。
「スローダウン」で野生動物にもやさしいツーリング ~ 動物標識はスローダウンの合図。野生動物と共存するドライブを心がけましょう。
「輸送もエコに」産地で食べるニコニコツーリング ~ 土地の味はその地で満喫するのが一番！輸送によるCO2削減にもつながる地産地消を楽しみましょう。
コース・情報を「事前に調べて」効率の良い安心ツーリング ~ 計画的なドライブでゆとりが生まれ、楽しさが倍増！コースや情報は事前に調べてドライブを楽しみましょう。
「ゴミ」は増やさず「持ち帰り」環境にやさしいクリーンツーリング ~ ゴミは出さない、持ち帰り！エコ&クリーンな旅を。ゴミのない景観を守りましょう。

事前

- ・エコツーリングを「知っている」「知らない」
- ・エコツーリングを「している」「たまにしている」「していない」

事後

- ・エコツーリングを「実行した」「実行していない」
- ・エコツーリングを今後実行しようと思う「思う」「思わない」「わからない」

表 - 4 に事前・事後の比較について記す。

日常的に「エコツーリングを実行している」割合より、「ツアー内で実行している」割合が高くなっている。また、各項目とも、事前アンケートにおける「エコツーリングを実行している」割合より、事後アンケートにおける「エコツーリングを今後実行しようと思う」という割合が多くなっている。このようなツアーを通して、環境に配慮した行動への理解と意識向上させることができる可能性があることがわかった。

4. ツアー内容の検証

(1) ツアーの満足度

モニターツアーの開催時期について、「満足」「やや満足」よりも、「やや不満」「どちらとも」といった回答が多く見られた。ツアー価格や行程、宿泊施設については、「満足」「やや満足」といった回答が6割ほどを占めるものの、「どちらとも」という回答が目立った。このことは、ドライブ観光やツアーの内容、ツアー全体に関しても、ほぼ同様の回答であった。

晩秋から初冬や、晩冬から初春にかけての観光端境期における観光メニューの充実、観光者数向上に直結関係すると考えられる。

表 - 4 エコツーリング事前事後比較

単位 %

エコツーリング項目	事前					事後				
	ETに関して		ETを実行			ETを		ETを今後実行しようとする		
	知っている	知らない	している	たまにしている	していない	実行した	実行していない	思う	思わない	わからない
アイドリングストップ	95	5	63	31	6	92	8	100	0	0
急発進・急加速を避けて	94	6	88	6	6	92	8	100	0	0
エアコン控えて	89	11	67	20	13	73	27	90	0	10
スローダウン	89	11	67	20	13	92	8	100	0	0
輸送もエコに	78	22	54	13	33	91	9	87	0	13
事前に調べて	78	22	50	21	29	91	9	90	0	10
ゴミ持ち帰り	89	11	80	20	0	100	0	100	0	0

表中の「ET」は「エコツーリング」

「どちらとも」というアンケート結果を、「やや満足」や「満足」にするために、宗谷の地域特色を活かした体験提供やコミュニティビジネスとの連携などを今後も調査・検討することが必要と考える。また、自由記入欄では、「時期に問題があると思います。雪道のリスクもありますので」といった声も寄せられており、観光者が冬季間も安心して走ることのできる道路整備や情報提供が不可欠であると考えられる。

さらに、「6時間バスに乗ってから、すぐに観光は厳しいです。非常に疲れました」といった声もあり、宗谷を訪れる際の走行時間や乗車時間の短縮を望んでいることが伺える。本ツアーは、11月17～18日に開催しているが、当初は、10月6～8日に開催する予定であった。この時は、札幌からレンタカーで稚内市・豊富町に来てもらう予定であったが、「5～6時間も運転して、観光する気にはなれない」などの意見が多く、参加者が集まらなかった。そこで、札幌からは都市間バスで移動していただくことになり、11月に実施している。来訪者にとって、ツアーメニューと同様に、対象地域までの移動手段・時間が来訪における動機付けとして、重要なものであることが理解できる。これらのことを考慮すると、今回のようなツアーの場合、北海道内の都市部からの短期の来訪者を対象とするよりは、北海道外の長期周遊観光をしている来訪者への1日メニューなどで参加を募ることも考えられる。

ツアーに対する期待に対して、「期待どおり」という回答が割合を超えたということや、自由記入欄に多くの声が寄せられたことから、本ツアーへの参加者の評価の高さが伺える。また、レンタカーにはハイブリット車を使用したり、風車・太陽光発電施設を見学したりといった環境学習的な内容だが、視察会のような堅苦しさがなく、新鮮に感じるといった声もあった。



写真 - 1 風車施設の様子



写真 - 2 太陽光発電の説明の様子

ただし、参加費用の評価については、「安い」と「妥当」という回答がほぼ半数ずつであった。今回、参加者から徴収した参加費は5,000円であり、事業費がなければ、この金額で実施することは難しい。

CO₂の排出の抑制・削減し相殺する植樹活動や、美しい景観を形成するための清掃や植栽活動、希少種の保護活動など、環境に配慮した地域づくりを目指すシステム「エコレージ」の原資を確保するかは、今後の大きな課題である。本ツアーの波及効果を検証するためにも、継続的な開催が必要と考える。

(2) ツアーメニューの評価

「エコ」への関心や意識が高い参加者層が反映されたのか、宗谷の雄大な自然を満喫できる大規模草地への立ち寄りや、地理的条件を活用した太陽光・風力発電機見学が好評であった。悪天候のため、自然エネルギーを活用した稚内公園での足湯の体験は見送られたが、観光メニューに取り入れたことは評価されている。特記すべきは、防雪林植樹の満足度の高さである。雨まじりの雪が降り、横なぐりの風が吹く悪天候の中での植樹であったが、参加者全員が「満足」「ほぼ満足」と回答している。

今後も継続的に植樹の体験提供を行うためには、用地の確保や苗木の調達、植樹先の維持管理など、運用資金を必要とする体制を整えることが必要となってくる。しかし、植樹体験は、環境に配慮した観光メニューとして、観光者に充足感を与え、行動変容を促すきっかけになるなど多くの効果をもたらすと考えられる。シーニックバイウェイ支援センターが企画・開催している「カーボンオフセット型ツアー」等を参考にしながら、宗谷の地理的な地域特色などを盛り込んだ観光メニューの開発が必要と考える。



写真 - 3 防雪林植樹の様子

(3) 今後の参加の可能性

「今後も参加したいか」という問いに対して、「参加したい」と「内容によって」を合わせると、参加者の9割が宗谷を再訪したいという回答があった。また、植樹した苗木の成長を確認したいという回答も多くあった（訪れたい164%、訪れたくない17%）。

また、「カーボンオフセット型ツアーをどのように思うか」という設問に対しては、参加者のうち6割が「早急に展開してほしい」という回答が寄せられた。しかし、参加者の2割が「全道に展開するのが望ましいが、コストの問題もあるので慎重に」と回答しており、「よくわからない」という回答も2割あった。このことは、宗谷でもCO₂の排出抑制や排出削減には取り組むべきではあるが、「エコレージ」の中でカーボンオフセットに着手するためには、その仕組みや効果を観光者にわかりやすく開示することが必要であると考えられる。

表 - 5 参加してみたい活動してみたいと思う取り組み

活動、取り組み	人数(人)
環境問題などに関する講演会・講習会への参加	6
自然観察会などへの参加	8
山林や里山、野生生物などの自然保護	9
花壇づくりや植樹などの緑化活動	4
まちなみ、河川などの美化・清掃活動	6
環境基金など環境保全のための寄付	0
特に取り組みたいものはない	1
取り組むつもりはない	

今後、参加や活動をしてみたいと思う取り組みについては、自然観測会や自然保護活動という回答が多く寄せられた(表 - 5)。また、「植樹会などでは、開催時期や回数などが限定される。いつでもエコを体験できるメニューなどの洗い出しを進めても良いのでは」「今回は植樹しかありませんでしたが、あのように目に見えて楽しいものがもうひとつづらえば、もっといいと思います」「植樹のように参加者主体のツアーであるべき

だと思います」のように、環境に関する体験メニューを増やすべきという意見もあった。希少種の保護や外来侵入種の防止活動などを盛り込んだ、宗谷の稀有で豊かな自然を実感する観光メニューの調査・開発が必要と考えられる。

(4) ポイント化による環境に配慮した観光行動の促しの可能性

今回のツアーでは、ツアー内に完結するポイント化の試行を行った。運営主体として参加者に知ってもらいたいことや努力してもらいたいことについて、ポイント化を行っている(表 - 6)。

表 - 6 ポイント化メニュー

太陽光発電のはなしを聞いてみる(1point)
風力発電のはなしを聞いてみる(1point)
ゴミをできるだけださない旅をする(1~3point)
植樹を手伝って宗谷の風景づくりに参加する(1point)
足湯にはいってエネルギー資源について考える(1point)
稚内副港市場で地元のお土産を買ってみる(1point)
CO ₂ をなるべくださないエコドライブをする(1~2point)

と に関しては、ゴミの総量が少ない・燃費が良かった参加者に対しては、ポイントを多くしている。これによりポイントが多かった参加者にプレゼントを渡すというイベントにすることができている。またこの項目について文書化(ポイントカード)し配布することで、参加者に対して環境に配慮した観光行動を意識付けするきっかけになっていると考える。

5. おわりに

レンタカーを活用した自由度の高いドライブ観光の提案は、個人旅行者に有効であると確認できた。また、楽しみながら環境への関心が高まったり、環境へ配慮した行動を体験したりする観光メニューへの需要が高まっていることが認識できた。

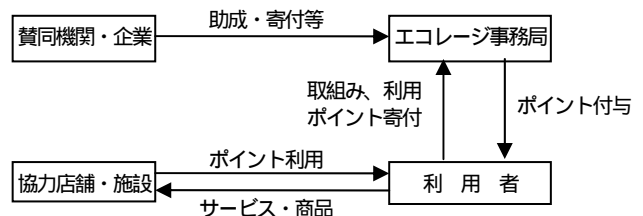


図 - 1 ポイント化の将来像

今後は関係機関の他、企業等との関わりの中で事業化の検証を行う必要がある。検証に当たり、今回の少ないサンプル数の補完、図 - 1 のような地域としての取組みの可能性を探ることも必要だと考える。